

橋梁専用舗装クラックシール

橋梁点検判定区分Ⅱ予防保全段階での処置工法



塩川ダム (塩川源橋)

街の暮らしを守る

- 専用材料 高弾性シール材スーパーフレックス路面温度 $-28 \sim 70^{\circ}\text{C}$ に適している材料 アスファルト・コンクリート舗装兼用タイプを専用メルター車にてクラックに圧入し止水する。
- 冬季には橋梁上部と下部の両側から冷やされる為、低温時まで柔軟性と耐久性を持つ材料が不可欠であり。 -28°C の極寒時でも機能する。
- 低コストで短時間に交通開放が可能な予防保全対策

鉄筋コンクリート床版の劣化速度は、水が浸入すると早くなります。これは、舗装クラックより雨水等が床版のひびわれ面のすり磨きを助長し、コンクリートの土砂化、鉄筋の腐食、融雪剤による塩害、アルカリシリカ反応 (ASR) 等、様々な悪条件にさらされます。したがって、水の侵入を防止することは、劣化防止の上で極めて重要であり、橋梁点検において判定区分Ⅱの予防保全段階で、クラックシールにより止水することが、鉄筋コンクリート床版の長寿命化につながります。



株式会社 関東技研

〒407-0263

山梨県韮崎市穴山町三ツ石 8786

TEL 0551-22-3235

FAX 0551-22-7271

e-mail info@kt-giken.co.jp

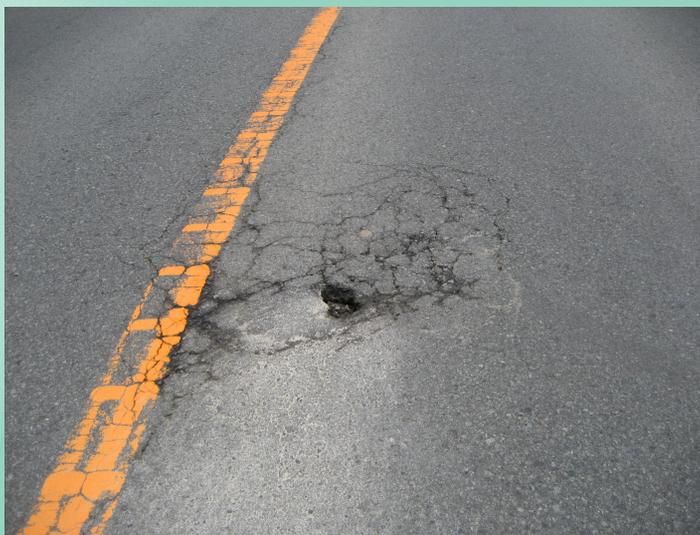
URL <https://kt-giken.co.jp>



HP QR コード

水の浸入を防ぎ床版劣化を抑え皆様大切な橋を守ります

橋梁舗装より想定される床版劣化診断



安全な社会生活環境の上で大切な橋梁は、このような状況になると床版劣化となり、強度不足を起こし最悪床版打ちとなり大規模な修繕工事となる事が考えられます



床版内部の鉄筋腐食により錆汁が噴出している。クラックが床版鉄筋まで到達していると想定される。



クラックにより水が浸入し、分離したセメント質が溶け出している。床版土砂化の初期症状。

当社施工事例



蕨崎市地内 ↑



北杜市地内 ⇨